

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006年 1月 31日

I 概要

実践団体・担当者名	大阪市立長吉中学校	(担当者：鈴木光一)
連絡先	06-6705-6855 (自宅) 090-9696-5606 (携帯)	
プランタイトル	避難所ってなに？ 自分の町の避難所を考えてみよう！	
目的	大規模災害発生時には自分たちの学校が避難所になることを認識したうえで、学校施設における避難者の形態別の利用方法や学校に保管している備蓄品をどのように利用するかを考え、地域住民への発表会という形式で広報することを目的とする。	
プランの概略	中学生が防災の知識の必要性を認識し、自分たちの学校施設を見直し、学校にある備蓄品等を調査研究する。その結果をもとに、学校が避難所になったときに活用できる学校施設の利用方法などを図面や模型で表し、 1・防災実技講習体験 大阪市消防局主催の防災実技講習を受講し防災に関する知識の必要性を認識してもらう 2・学校（避難所）及び備蓄品の調査研究 (1) 学校が避難所になった場合の体育館や教室の利用方法の検討 (2) 備蓄品の内容と使用方法の検討 (3) 避難所に関するリーフレットの作成 3 調査研究した内容を地域の方に発表する	
プランの対象と参加人数	作成者 中学生 10 名 発表会 地域防災リーダー、PTA実行委員、中学校下の小学校教諭等 30 名	
実施日時	作成期間 2005年8月～2006年1月 発表会 2006年1月31日	
主な実施場所	大阪市立長吉中学校 会議室	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有
	連携した団体名	① 平野区長吉長原東連合 ② 平野区役所
	連携したきっかけ・理由	① 地域住民の方に発表会へ参加してもらうために相談した。 ② 避難所計画等における区役所の考え方等を教えてもらった。
	連携団体へのアプローチ方法	① 中学校区域の連合町会として以前より面識があった ② 避難所計画等を教えてもらうために連絡をとり協力してもらった
	連携団体との打合せ回数	① 1時間×3回 ② 1時間×2回
	連携団体との役割分担	① 連合の地域防災リーダーの参加を呼びかけてもらった ② 区役所が作成したリーフレット内容の転記の承諾及び備蓄品の確認

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	5名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	責 任 者 鈴木光一（長吉中学校PTA会長） アシスタント 町田里美（長吉中学校PTA副会長） アシスタント 奥村澄子（長吉中学校PTA書記） アシスタント 幅 圭子（長吉中学校PTA会計） アシスタント 榊原千代子（長吉中学校PTA会計監査）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2004年12月 ～ 2005年1月
	立案時間	1時間×2回
	上記のうち打合せ回数	2回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○ 学校の授業やクラブ活動に影響を及ぼさない時間帯で生徒たちを集めること ○ 学校施設を使用する事が多いので先生方と連絡調整を密にすること ○ 学校教育やクラブ活動とは別ではあるが、学校内での行事なので規律を遵守すること	
プラン立案で 苦労した点	○ 参加対象者を何年生にするか？ ○ 募集要領をどのようにするか？ ○ 避難所の研究調査の内容はどうするか？	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	8名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	責 任 者 鈴木光一（長吉中学校PTA会長） アシスタント 町田里美（長吉中学校PTA副会長） アシスタント 奥村澄子（長吉中学校PTA書記） アシスタント 幅 圭子（長吉中学校PTA会計） アシスタント 榊原千代子（長吉中学校PTA会計監査） プラン相談役 八田 実（長吉中学校長） 先生方との連絡調整 長谷川朝男（長吉中学校教頭） 模型作成 小池（長吉中学校教諭・技術クラブ顧問）
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年5月～2006年1月
	準備総時間	2時間×12回 6時間×2回
	上記の内打合せ回数	回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	なし

	どのように働きかけたか	
	結果	
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	先の連携団体（平野区長吉長原東連合）
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	発表者の保護者に発表会への出席依頼をした
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	○ 教材：避難所の研究 ○ 機材：展示用机
	入手先・入手方法	○教材：書店で購入 ○機材：学校の机を借用
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	○教材：避難所に関する研究内容が詳細であった
参加者の募集	募集方法	1 調査研究する生徒の募集 防災実技講習体験への参加を呼びかけ、その参加者に本プランへの参加を呼びかけた 2 発表会への参加募集 地域防災リーダーの方及び発表会参加の生徒の保護者へ呼びかけた
	募集期間	1 2005年7月 ～ 10月 2 2006年1月
	参加予想人数	1 防災実技講習30名 プラン参加者10名 2 発表会 20名
	実際の参加人数	1 防災実技講習18名 プラン参加者 最大12名（発表会参加者6名） 2 発表会
	募集方法の成功点	防災実技講習の内容が、防災や消防体験的なことが好きな子供にはうけた
	募集方法の失敗点	○防災実技講習の内容が、防災や消防体験的なことが嫌いな子供にはうけなかった ○防災実技講習の内容が伝わりにくかった
準備で苦労した点・工夫した点		子供の募集からプラン参加の人員が確定及び固定化するまでに時間がかかった

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月	11/9 第1回打合せ 「防災教育チャレンジプランの概要説明及び企画内容について」		
12月	12/13 第2回打合せ 「企画内容と申し込みについて 学校側と調整」		
2005 1月	1/14 第3回打合せ「学校側と申し込み内容の最終確認」		
2月			
3月			
4月			
5月		5/18 平成17年度第1回PTA実行委員会開催（平成17年度PTAはここから活動を開始します）同日PTA役員会で本プランの発表及び内容確認	
6月		6/7 平成17年度予算総会時に本プランの発表及び協力依頼要請 6/25 PTA打合せ会議	
7月		7/7 防災教育チャレンジプランの参加のお知らせ配布 7/13 防災センター見学及び第1回防災実技講習参加募集配布	
8月		防災センターは参加希望3名のため中止	8/28 防災実技講習受講
9月		9/22 第2回防災実技講習参加募集	
10月		10/25 PTA役員打合せ会議	10/29 防災実技講習受講及び本プラン参加者の確認
11月			11/15 生徒の研究会（15:00～16:30） 11/19 生徒の研究会（14:00～16:00）
12月			12/3 生徒の研究会（10:00～12:00） 12/10 生徒の研究会（10:00～12:00） 12/18 生徒の研究会（10:00～13:00） 12/24 生徒の研究会（10:00～12:00）
2006 1月			1/7 生徒の研究会（10:00～12:00） 1/14 生徒の研究会（10:00～12:00） 1/21 生徒の研究会（10:00～12:00） 1/28 生徒の研究会（10:00～12:00） 1/31 発表会（19:30～20:40）

Ⅴ実践の詳細 【B. イベント】（短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル	防災実技講習	学校施設の模型作成	避難所マップ作成	発表会
実施日	8月28日・10月29日	11月～1月	11月15日、19日 12月3日、10日、18日24日 1月7日、21日28日	1月31日
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	防災に必要な技術や体験をする	学校の模型を作成しながら学校施設を再確認する	どのような避難者がいるかを把握する	地域の方の前で自分たちが勉強したことを発表してちゃんと伝わるか？
生成物		学校縮尺模型（木製）	・ 避難者形態別の利用方法を色分けした図面 ・ 避難所ルール等の冊子	
進め方 （箇条書き）	大阪市消防局主催	技術クラブの顧問先生が中心にクラブ員と進めた	・ パソコンによる避難所ルールなどの作成 ・ 模造紙に中学校施設を書き込み、その後避難所利用者別の場所振り分け図面の作成	各自持分のパートを発表した
ツール （特別に用意したもの）		木材	模造紙・マジック・定規	机・ボード
場所	長吉中学校（会議室）	長吉中学校（会議室）	長吉中学校（会議室）	長吉中学校（会議室）

VI実践後

参加者への アンケート結果	○ 資料のアンケートを実施した ○ 学校内の備蓄品については地域防災リーダーは知っていたが、PTAの人は知らなかった	
成果として 得たこと	子供たちの発表が地域の方に受け入れられた。 地域防災リーダーの方から町会にも来てほしいと言われた 新聞の取材が地域の方にも刺激なって、聴くほうも真剣に話すほうも適度な緊張で子供たちの取り組みがより効果的にみえた	
成果物	（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。） ○ 学校施設の利用方法（避難者の形態別に色分けしたもの）模造紙 1 枚に書き込みしたもの ○ 学校施設の縮尺模型 ○ 発表会時に地域の方に配布した資料 ① 避難所のルール（基本形のパターンを書いたA4 1 枚） ② 学校施設の利用方法（パソコンによるA4 2 枚） ③ 普段の心がけや非常持ち出し品（区役所発行の広報誌から抜粋したものでA4 1 枚）	
広報方法	広報した先	○大阪日日新聞 ○朝日学生新聞社
	広報の方法	○大阪日日新聞・・・当校への別件の取材時にお知らせ ○朝日学生新聞社・・・防災教育チャレンジのHPを見て学校へ問い合わせがあったもの
	取材にきたマスコミ	○大阪日日新聞 ○朝日学生新聞社
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	1 月 31 日減税未定
	成功点	○ 防災教育チャレンジプランのHPから朝日学生新聞が取材にきたし、大阪日日新聞にも概要は防災教育チャレンジプランのHPを見てほしいと伝えるなど、本HPが非常に有効であったと認識します。
	失敗点	○ 特になし
全体の感想と 反省・課題	生徒の募集が中間発表まではうまくいってなかったが、第2回目の防災実技講習がすんで活動してくれる生徒が決まったことでようやく軌道に乗れました。先に書きましたが、当初計画していた防災訓練時における地域住民の方への発表ではなく、地域を守るために選ばれている地域防災リーダーの方に発表するという少数人数への発表会に切り替えたことによ	

	て、生徒たちと地域の方へとのコミュニケーションがよく取れたのでは考えます。	
今後の予定	来年度以降の進め方	① 今回は1 連合の地域防災リーダーの方への発表で終わったが、中学校下にはもうひとつ他の連合の地域防災リーダーがあるので、こちらにも近々発表する予定です。 ② 今回の発表のアンケートや意見をいただき、内容的も評価が高ければ、PTA保護者にも数回に分けて発表したいと考えています。また、当初計画にあった地域住民への広報についても、今回の発表会形式で町会の人にもお知らせしていきたいと思います。方法としては、学校にきていただくと学校施設の紹介ができるのではと考えています。その経過や結果は2005年度実施団体の活動報告としてお知らせしたいと思います。 ③ 今回の生徒は2年生なので、3年生になったあと自分たちのしたことを、なんとか2年生につないでもらえないかと生徒たちをお願いしていくつもりです。このように育った防災教育の形を、できればつづけてほしいと願うので、上級生から下級生にどんな形でもいいからつないでほしいと思います。一応来年度もPTA会長をする予定なので努力してみます。
	是非実施してみたい取り組み	地域の方への巡回広報という形を、今回の発表会形式で「長中防災キャラバン隊」として、なかなか学校までくる事ができないお年よりのために、各町会の集会所などへ出張というか、出前というか、巡回広報というか生徒たちと回ることも可能かなと考えて見たいと思います。